

札幌発、夢の国『東京』への羨望と憎悪が入り交じった ブラックなファンタジーが届けられた。

AND「東京OZ月光」
2006年9月12～13日 新宿タイニリアス アリスフェスティバル2006参加作品



劇評を書くとき私は台本を読まない。読むと、舞台見ている分が分からなかったことが分かってしまったりすることがよくあるからだ。自分の見落とし聞き落としも含めてそのとき感受したもの、もう二度と戻ってこないあの時間こそ舞台の、そして私の、すべてだと私は思っているから、である。けれども今度の「東京OZ月光」(亀井健作・演出)だけは降参。札幌に帰って公演、忙しい最中のANDに台本読ませてと私はメールを入れてしまった。あの、何だかよく分からなかった舞台の、しかしその底に確かにあった「暗い思念」みたいなもの。あれは何だったのだろうか。どうしても突き止めたかったからである。

けれども再び、送ってもらった台本を読んでも同じことだった。3度読んでも4度読んでも分からないことばかりだった。半分冗談だけれど、ピカソの戯曲「尻尾をつかまれた欲望」以来の経験と言っている。

そんならやっぱり見たままでいいんでしょと、もう一度頭の中で舞台を追ってみた。すると、新薬の人体実験に供され産業廃棄物核の処理場にされてしまった廃村シリコあの若者たち。どうや

らみんな、口で言わず、舞台でもせいぜい、ときに風船が出てくるかバス停にちょっと立つぐらいしかしなかったけれど、何でも手に入りエメラルドの夢が叶うという極東居住区すなわち東京へ行きたいと、ひそかに、しかし熱烈に憧れていたのでは？とアタリがついてきた。それで結局彼らは東京へ行けたのか行けなかったのか？は分からなかったけれど、とにかく彼らは東京への往きか帰りにかにバス・ジャックをし、シリコを差別した運転手を轢き殺してしまっ

たことだけは確かだったらしい。そのハイジャックもどうやら時を遡行して描いてあったらしく、頭はこんがらがり、間に愛の三角関係あり、絞殺もありして余計ややこしいが、シリコに帰りに着いたうちの一人、最初孤独だった男女は最後に、やさしい愛の配達夫と受取人へと変わっていたのだった。「オズの魔法使い」の、さしずめドロシーといったところだろう。

もう一つ、この大筋とほとんど交互の形で描かれていたのが、すでに東京に住んで逆にシリコに帰りたいとひそかな願いを抱いている青年(亀井健)名は魔法使いのオズだと言っていたが、いちども魔法を使えないのでほんとにどうかは定かでない。ただ、緑の眼鏡をかけていたからエメラルドの都の旅人であることだけは確かだ。仕事は男娼、客のペニスを噛みちぎり、東条財閥トップの首を掻き切り、ここは独立国東京OZだと宣言する。が、自分も毒を呑まされ、撃たれ、死んでしまったようである。これまた時が進行したり遡行したり前後したりで、ややこしい。が、それはともかくとして、夜の客はエメラルドの詰まった袍を持っていたし、財閥やそれを守る法の執行者たちはシリコを廃村に指定した張本人だったのだから、青

年が何を憎み復讐しようとしたかは明白である。

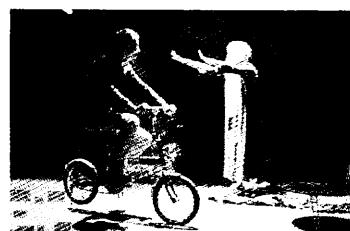
最後に青年は、夜空を見ながら自分とそっくりの男(亀井二役)に、シリコに帰って人間らしく生きたいと夢を語っていた。そして「エムおばさんはキャベツに水をやるうちょうど家を出た時でした。ふと顔をあげるとドロシーが必死にこっちへ駆けてくるではありませんか」、「一体何処から帰ってきたの。ドロシーはおごそかな様子で言いました。オズの国からよ」……東京からシリコにきた財閥の手下——たしか、取調べ警官だったはず

が絵本を読みながら出てきて、これもシリコに戻っていた青年の妹——青年と妹は東京で互いに鎖につながれていたから、妹も青年の分身だったかも？——に、捨てるように渡して去っていく。ひょっとしたら、劇全体はドロシーの、言いかえれば東京へ行ってきたシリコの若者たちの、夢だったという構造だったのかも知れない。

バックに美しい星空と月。左手奥には絵本の挿絵そのままの旅の馬車。お伽話のふりして、シリコは二風ダムや平取ダムに沈んだアイヌの村か、それともバケ所、敦賀、福島、東海……全国に散在する原子力発電所、その処理所とされた過疎の村だろうか。ネオンちかちか、エアコン、テレビ、パソコンつけっ放しの東京に居てすっかり忘れていたことを、この「東京OZ月光」はいやおうなく思い出させてくれたのが素敵だった。

いや、もうちょっと正直に言おう。夜空を眺めながら東京に憧れ東京を憎み殺意に駆られ、夢を夢見る青年が居た！ 私たちはそれを知ってしまった！ ということがいちばん素敵だった。私たちに雪祭りに訪れたいなぐらいでしかなかったアノ札幌に、である。作者とそのANDは公演を終えた今、心から札幌を愛し、札幌をドロシーにとってのカンザスにしよう、そのために芝居を創り続けていると決心しているにちがいない。私はそう思った。

(2006.9.12所見 西村博子)



撮影/青木司(2点とも)

INTOWN

手と動かす

●9月、10月と横浜・馬車道にあるBankART NYKへ通っている。陶土を使った作品、インスタレーションを制作する保科晶子のオープンスタジオを、私は週1で、主にインタビューをしながら定点観測している。陶土を使っているといっても、いわゆる陶芸とは異なる。保科は、窯元を持たず、皿などの器は作らない。今まで画廊などで発表してきた作品は、置き物のような丸い形をした「goron」、

白らの手に陶土を巻いて作る「手」などだ。それを画廊、公園など、自由に空間を使う＝インスタレーション作品として展示してきた。土の特性を生かした柔軟な制作方法と、立体作品らし



『にしすがも創造舎舞台芸術アーカイブ』がオープン！

NEWS

アーカイブの風景

い発表形態だった。今回BankART NYKでは、自宅アトリエの券開きをそのまま持ってきた。そこでは「ひもづくり」の技法を応用した、保科が「ぐるぐる」と呼ぶ陶土をひも状に練ったものを用いて、身の回りにあるものを巻いていく。ガラスの瓶やさっきまで飲んでいたコーヒーカップに、ぐるぐる陶土を巻きつける。希望者には焼成も行。誰でも参加自由。絵画とは違い、上手・下手という美術に対する抵抗もなく、スムーズに誰もが手を動かす。しばらくおしゃべりをしながら、柔らかな土をいじっていると、いろんな雑多なことを忘れることが出来る。時には普段と少し違う時間も人生には必要、と教えてくれる気がする。(藤田千彩) 保科晶子「ぐるぐるまきプロジェクト」2006年9月3日～10月29日 横浜BankART NYKスタジオ8

豊島区とNPO法人アートネットワークジャパンが、舞台芸術に関する資料を閲覧することが出来る資料室『にしすがも創造舎舞台芸術アーカイブ』をオープンさせた。演劇・ダンスの関連雑誌やパンフレット、また戯曲集、アートマネジメント関係の書籍や海外の舞台芸術関連資料など、現在の蔵書数は約1500冊。演劇やダンスについて専門的に学びたい人からアートに興味があるという人まで、幅広く活用出来る資料が揃っており、予約をすれば誰でも無料で閲覧することが出来る。また今後は映像資料の公開も検討しており、専門家だけでなく一般の人に開かれたアーカイブになることは間違いない。詳細、予約方法等はにしすがも創造舎のウェブサイト <http://sozoshana.anj.or.jp/index.html> を参照のこと。

- にしすがも創造舎舞台芸術アーカイブ
- 場所…にしすがも創造舎 (〒170-0001東京都豊島区西巣鴨4-9-11旧朝日中学校)
- 予約・お問い合わせ…tel:03-5961-5200 (平日10:00～19:00) e-mail:sozoshana-info@anj.or.jp
- 企画・運営…豊島区文化デザイン課
- 運営協力…NPO法人アートネットワークジャパン

2つの民族の遠い記憶を辿る旅。 日韓共同製作の期待の作品が登場。

過去最多の参加劇団を迎えて開催中のALICE FESTIVAL2006。地方で活動する日本の劇団をはじめ、今回も韓国や台湾、イラク等から注目劇団が招聘されるなど、アリスフェスならではのプログラムになっている。今回はその目玉企画の一つである榴華殿(東京)+釜山演劇製作所 Dong-Nyok (釜山)の共同製作の稽古場取材することが出来た。

—稽古場とはあるマンションの一室。韓国から来たドンニョックのメンバーは日本での製作と公演の間、共に寝泊まりしているという。稽古の終了後、ドンニョックのO Chi-Un氏と榴華殿の川松理有氏に話を伺った。まずはその共同製作はどのような経緯で始まり、お互いはお互いの作品にどのような印象を受けたのだろうか。

O Chi-Un (以下O) …97年に榴華殿が釜山に訪れた時に公演を観たのですが、その時の印象が強く残っていました。その後コーディネーターのKim氏(今回の作品に役者としても出演)から2つの劇団が一緒にやってみようか、という提案があり今回の共同製作になったのです。榴華殿を最初に観た時の印象は、時間と空間がいり混じっていて、まるで夢のような印象が強くありました。自分も夢のイメージを表現するやりかたを模索していたので、その印象は強く残っていました。韓国の舞台の表現は現実的な表現が多かったので、どこかの時間、空間が分からない設定というのは、珍しい表現だという印象がありましたね。

川松理有(以下川松) …昨年のドンニョックの公演を観て、非常に美しいイメージを視覚化する集団だなという印象がありました。私達も美意識というのを優先して作っている、その点で共通点があると思いましたが、私達の場合は作品にあまり意味を持たせず、ビジュアルが先行して作っていく面があるのに対して、彼らの場合は哲学を持っていて、それをいかに美しく見せるかということがあるようです。美しいものを求めているのはどちらも同じだけれども、そこに至る過程が違うと感じました。その違う二つが組み合わさったら面白いのではないのかと思って、今回の共同製作もお引き受けしました。

—私が訪れたのは、稽古が始まって2週間ほど経った日。稽古場ではO氏と川松氏が順番にそれぞれの演出で短いエチュードが行われていた。共同製作は実際にはどのよ

うに行われているのだろうか。
川松…私はキャスティングが決まってから具体的な指示をする方なので、それまではまず違うやり方でやって来た人たちが一つのことを同時にやるための場をつくる時間にあてました。最初のうちはまったく台本の無い状態でやっていた時期もありました。今は具体的に形にしていけるまでの過渡期の状態ですね。台本は分担して書いています。ある姉妹がメインの登場人物としていますが、その姉の方の物語を私が、妹の物語をOさんが書いています。姉の物語は日本神話がもとになっていて、それを韓国人のキャストに演じてもらっています。そして、妹の物語は韓国の神話がもとになっていて、それを日本人のキャストが演じるということを考えています。Oさんから神話をモチーフにという話がありました。

O…文化の違う日本と韓国の集団が何かを一緒に作るのに、どこから始めればいいのかとまず考えました。その結果、神話という本質的なものに遡ってみれば、そこから共通点や違いが見いだせるのではないのかと考えたのです。
—文化の違う国の俳優との協業。お互いは韓国と日本の俳優の違いをどう見ているのだろうか。
O…日本の俳優さんは技術も有るし、その点はまるで心配していませんでした。最初は日本の稽古の雰囲気は重いというイメージがあったのですが、実際にやってみると自由で、活発な雰囲気だったので安心しました。あまり韓国と変わらないという印象があります。

川松…韓国の役者の皆さんはみんなパワフルですね。圧倒的なハワーを持っている。それによく食べます(笑)。韓国の役者さんたちと稽古をやっていると、私の印象では色々なことが「伝わらすぎてしまう」という印象があります。言葉も通じ、もっと分からない部分があった方が面白いのではないかと考えているんです。そして役者には、言葉では伝わらない部分をもっと自分なりの伝え方で伝えて欲しいんです。だから私も今後は通訳を挟まずに自分なりの言葉で直接俳優に話してやっていこうかと思っています。でも彼らは日本の言葉覚えてしまっているんですよ(笑)。

—伝えることよりも伝わらないことが重要だ、という意見は興味深い。稽古の中でお互いに通じない自国の言葉を使っている演技や、言葉を使用しない稽古が行われており、それらを必死に伝えようとする俳優たちの様子が非常に面白かった。私の見た印象では韓国の俳優陣の方が自由に演技している印象があったのだが、両者のやり方はどんな違いがあるのだろうか。
O…今はまだ設定をきっちり決めていな



ドンニョックのO Chi-Un氏

榴華殿の川松理有氏

い段階なので、韓国の俳優は自由に動いていますね。日本の俳優は何かの目的のために一步一步やっていくという特徴があると思います。稽古が進み具体的な設定になったら、その方が力が出せると思います。

川松…日本の俳優からはなぜそうするのか、という問いが多いですね。それに対して韓国の俳優は自分が今を思っているのか、というのを重視しているように感じます。客観性を重視するのと、主観性を重視するという違いはあると思います。それから韓国と日本の違いもありますが、彼らの育つ環境の違いもあるのではないかと思います。韓国側のキャストはほとんどが芸術系の学校で教育を受けた人たちです。日本側は叩き上げというか、色々な所から自分流で育って来た人が多い。その違いはありますね。

O…台本は出来ているので、これからの稽古ではこれに肉付けして行こうと思います。面白くないイメージは削ったりしていきます。これからはもっと俳優が自分でイメージを広げていって欲しいと思います。台本を書いたのは自分だが、やるのは日本の俳優でよし、自分の思っていたイメージとは違っている面があると思うので、その辺りは修正したりしていきたいと思っています。

川松…これからは台本と役者の演技を合わせていきます。その中で「言葉ではない会話の部分」を演出でやってみようかと考えています。設定上、言葉を使って語らなければいけない部分が多いのですが、実際には俳優の体の動きがメインになると思います。

—現代では均一化され、ほとんど同じような生活を送るように見える二つの民族。神話という遠い記憶を辿ることで、そこにどんな差異が見いだせるのだろうか。そして彼らがそれぞれどんな美しいイメージとして見せてくれるのか楽しみだ。(取材/CUT IN)

『Myth Busan-Tokyo MIX』
榴華殿(東京)+釜山演劇製作所 Dong-Nyok (釜山)
10月20日(金) 19:30 ~
10月21日(土) 13:30 ~ / 18:30 ~
10月22日(日) 13:30 ~ / 18:30 ~
新宿タイニイアリス
前売=2500円 当日=3000円
問い合わせ=03-3354-7303 info@rukaden.com



稽古の様子(2/25撮影)

過去の映像が今の私達に手渡された、奇跡的な瞬間。

ドキュメンタリー・ドリーム・ショー
山形 in 東京 2006
9月16日~29日 ポレポレ東中野
9月30日~10月20日
アテネ・フランセ文化センター

89年より開催されている国際的なドキュメンタリー映画祭『山形国際ドキュメンタリー映画祭』。そこにノミネートされた作品を中心に、世界各国から80本以上のドキュメンタリー映像が一挙に公開されるイベントが東京で行われた。「世界で今、何が起きているのかを体感する」映画祭として10回目を迎える同映画祭だが、その名にふさわしい巨大なフェスティバルであり、集められた作品も質が高い。また日本の作家特集や、カンボジアの作家リティー・パニユの特集など、多彩なプログラムがあり、アジアのドキュメンタリー映像を多く見ることが出来るのも特徴だ。その中で特に印象に残ったのは在日朝鮮人の特集だった。

在日特集のプログラムでは新聞社のテレビニュースの中から、在日の朝鮮人たちの暮らしぶりや、本国へ帰還される当日のニュースなどが上映された。これらの映像

はニュース映像なので、当時の日本人に向けて届けられたものだが、今の私達が受け止めるべき重要な映像資料になっている。また「日本の子どもたち」はドキュメンタリーでなく児童教育用の劇映画だ。日本の小学生たちが不法入国の朝鮮人が拘留されている施設に慰問に行こうと言い出す。同じクラスにいる在日朝鮮人に対する小さな差別や、教員と生徒の話合いが教育用映画らしく、極めて客観的に理想的に描かれている嫌いがあるにせよ、小学生たちの「なぜ朝鮮人が日本にいるのか」として「どうして彼らが帰国に帰れないのか」という素朴な問いは実に印象的だ。「日本海の歌」は在日朝鮮人の北朝鮮への帰還を取り上げた作品だが、日本の支配、北朝鮮の立国など「祖国」を求め続けた朝鮮人の歴史のまとめともいえるような内容になっている。そして驚いたのはこの作品のラストシーンだ。帰国が決まり北朝鮮へ渡るため進む船と、日本海の映像のバックに一人の帰還者の言葉が流れるのだが、これまでの日本での貧しく苦難の多かった半生とやっと自らの祖国へ帰ることが出来る喜びを語る言葉の中に、ふと日本で暮ら

た生活と、日本人への懐かしさがよぎるのだ。彼らが喜びの涙を流して帰っていった北朝鮮については今は報道で知る限りである。そのことを考えあわせるとこれは何という皮肉だろう。一体この人が求めた「祖国」とは何なのだろうか、考えざるを得ない。そして何よりも、この印象的なエンディングが、今を生きる私達の側にぼんやりと手渡されたような気持ちになったことが驚きだった。ほぼ40年前に製作された映像が今現在にリンクした。まさにこの映像は、今上映されるのを、そして少し大きめに言ってしまうと「私」に手渡されるのを待っていたかのようだ。作品は「誰に」届けられるのか、ということと同時に「いつ」届けられるのかということも非常に重要であろう。この作品は今「上映」されることによって、作者の当時の思いを越え、また新たな意味を持つことになったのではないか。それほどこの映像のラストシーンは見事に今に繋がっていた。ひとつの作品が他でもない「私」に向けられているようだ、という感覚はなかなかあるものではない。これは優れた作品であると同時に優れた「上映」であったと言えるであろう。(小笠原幸介)



アリスフェス'06、注目のラインナップを紹介!

アジア各都市をネットワークで繋ぐ新宿の小劇場
TINY ALICE より最新ニュース

踊る演劇小ネタ集団
アトリエサンクス (from大阪)
『はじめてのメリークリスマス』
11月2日(木)～5日(日)



11月2日(木) 19:00～
11月3日(金) 13:00～ 17:00～
11月4日(土) 15:00～ 19:00～
11月5日(日) 13:00～ 17:00～

☆作・演出 = ワタナベアキラ ☆出演 = 村上泰子
浦川舞奈 橋ユウスケ 村上愛 襟立美樹 立
田恭三 北川真理 ワタナベアキラ

☆問い合わせ = TEL:090-9696-0141 (ゼロキュー
ゼロ、黒々美味しい。) FAX:06-6354-3992

E-MAIL:atelierthank-x@occn.zaq.ne.jp

web:http://www.occn.zaq.ne.jp/thankbox/

→どこまでもせつなく、どこまでもやさしい。こんなに
楽しくてこんなに胸の奥をグッとつかまれるクリスマ
スファンタジーが今までにあったでしょうか!!「何気な
いことをさりげなく」をテーマに展開するアトリエサン
クスの作品のコンセプトが生んだ幻玉のクリスマス
ファンタジー。1994年結成。渡辺晃の「秘孔をつく



笑い!?!、テンポ、リズムに富む演出はすでに定評が
あり、特に大阪のファンを魅了してきたその素敵ナ
ンスは見逃せない。

E.G.WORLD IV (from東京)
「Remember The Anahyme～
「わかっているだろう」「わかってくれる
だろう」は、終わりの始まり。～」
11月17日(金)～19(日)



11月17日(金) 19:00～

11月18日(土) 14:00～ 19:00～

11月19日(日) 14:00～ 19:00～

☆作・演出 = 金堂修

☆出演 = 出口恵子 鹿野浩明 ニーナ・B・ティグ
レ 他 ☆問い合わせ = Tel&Fax:03-3361-9758

→「E.G.WORLD IV」は、映画「赤日四十八瀬心
中未迷」に出演した金堂修一が主宰し、映画「県
庁の星」に準主演した、和田聡宏も出身のグループ。
芝居の力を信じ、プレッシャー・コンプレックス・ディス
コミュニケーションをテーマに、メンバーのベストキャラ
ベストプレイを探索中。もっとヘヴィに! もっとハード
に! もっとディープに! 本物(印象に残る芝居)を
つくるべく、本物(存在感のある役者)になるべく、
ゼロから挑戦。

ギリシャ悲劇とシェイクスピアとイブセンと三好十郎
と、ジョン・カサベテとケン・ローチとラース・フォン・
トリアーのファンは必見! 「E.G.WORLD IV」は小
劇場演劇ではない。インディーズ演劇である。



劇団Uglyduckling
(from大阪)
「スパイクレコード」
12月8日(金)～10(日)



12月8日(金) 19:00～
12月9日(土) 14:00～ 19:00～
12月10日(日) 14:00～

☆作 = 樋口美友喜 ☆演出 = 池田祐佳理
☆出演(全員) = 出口弥生・中村隆一郎・吉川貴子・
ののあざみ・村上桜子・太田浩司(未来探偵社)・
藤岡悠美子(南船北馬一団)・中野聡・樋口美友
喜 ☆問い合わせ = Tel&Fax:06-6933-3455
E-mail:ugly_art5@hotmail.com

Web:http://www1.vecceed.ne.jp/~ugly-d

→1995年旗揚げ。劇団全作品は、作:樋口美友喜、
演出:池田祐佳理のコンビによるオリジナルを上演。
現代社会を斬新な価値観でとらえ(奇想天外)か
つ(ダイナミック)に描かれる劇世界は、からくり仕掛
けの迷宮のよう…。舞台上に多義的に躍動する(こ
とば)と(からだ)は、一瞬のうちに観客を独特のア
グリーワールドへとといざないます。

東京へは5度目となる本公演、2003年11月「アド
ウェントゥーラ」で登場後2回目のタイニリアリスフェス
ティバル参加となります。今回は1年ぶりの新作公演!
どうぞご期待ください。



参加者各自の創意工夫が伝わってくる 心に響くドラマリーディング発表会。

芸術文化を支援、発信するNPO
アートネットワーク・ジャパンより
MONTHLY LETTER Vol.32

昨年も開催され、好評だった「読み聞かせ」の
実践講座「心に響くドラマリーディング」が今年
もにしがも創造舎にて行われた。この講座は
アートネットワークジャパンが豊島区等と組織し
ている「としま文化創造プロジェクト実行委員会」
が主催するもので、豊島区在住・在勤の方を対
象に、プロの演出家、俳優を講師に迎えて行われ
る読み聞かせの講座である。参加者は全8回の
講座を受講し、最終日にそれぞれ自分の読みたい
素材を持ち寄り、実際に人前で読んで聞かせ
る発表会が行われる。今回はその様子をレポ
ートします。

講座の講師である阿部初美氏のコメントによると、
今回の講座で言う「リーディング」は、戯曲の紹介や
作品のプレ公演のようなものではなく、それ自体でひ
とつの表現ジャンルといえるようなものとして考えられ
ているようだ。実際に発表会を覗いてみると、参加者
が自ら発表会の司会をつとめ、しかも実際にお客さ
んの前で行うという、本当に「公演」のスタイルをと
っていた。以前の発表会をレポートした際には同じ受
講者の前だけで読んでいたので、そこから一歩進み、
今回はとくに人に見せるということを意識されている
ようだ。また、前回は読む内容にあわせて参加者自

身が演出を自由に考えていたが、今回はさらに演出
の面が自由になり、様々な工夫が見られた。

例えば照明を落とし、電球の明かりだけで読んだり、
バックに音楽を入れたり、スライドを映しながら読
むものや、黒板に文字を書きながら読んだりするもの
もあり、それぞれの効果が面白かった。さらに一人
ではなく、2、3人でチームを作って発表したり、いわゆる
リーディングというより一歩進んだ立ち稽古のようなス
タイルで行うものもあった。「見せる」意識が観客に
も伝わったのか客席からも笑いが起きたりしていた。

全体を通して感じたことは、読み手がプロの俳優
でないにも関わらず、観客として見ている面白
いものが多かったということだ。この面白さは、役者のレ
ベルのことではない。また、読んでいるテキストが感
動的だからではない。むしろテキストの内容というより
も、読む人の個性が全面に出て来ている、その面白
さなのである。例えば発表者の中には、既存のテ
キストを読むのではなく、自分の母親のエピソードを
語る者がいたのだが、その母親の性格や、読み手
の思いが伝わってくる、実に面白い「リー
ディング」になっているのだ。また参加者
の「人に見せる」「見る人を楽しんでもら
う」という気持ちが節々から伝わってくる
のも非常に好感が持てた。各人が創造
力を目一杯発揮して、ひとつの発表会
を面白いものにしようとする熱意を感じ

られたのは、講師の阿部氏も感想で述べていたよう
に実に感動的だったと言える。プロが行う公演とは
またひと味違った演劇の面白さだ。

現在小学校や図書館などで読み聞かせの会は
盛んに行われており、それを行う読み聞かせのボラ
ンティアスタッフは必要とされているという。この講座
もボランティアスタッフの育成という目的も含まれて
いるのだが、それとは別に参加者が「相手に何かを伝
えること」、表現することの楽しさを体感するという
ことは、素晴らしいことではなかったろうか。前回の参
加者がもう一度受講を希望するというケースも多く、
参加者の中から自主的に「読み聞かせの会」を立
ち上げている者もいるという。この事実はこの講座
の大きな成果ではないか。(CUT IN)

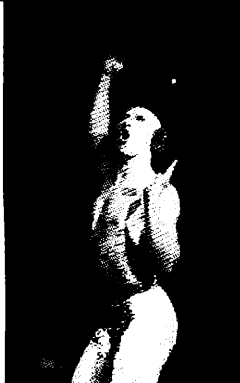
NPO法人アートネットワークジャパンは、「東京国
際芸術祭」の開催や、にしがも創造舎などの
アートセンターの企画・運営などさまざまな芸術
文化に関するプロジェクトを立ち上げています。
ANJの活動内容については、リニューアルした
ウェブサイト <http://anj.or.jp> もご覧ください。



→左)毎回講座終了後に行うミーティング 右)9月23日に催された発表会

ジャンル分け不能のパフォーマンス作品に注目。

新しい演劇を発信する神楽坂と麻布の小劇場
DIE PRATZE より最新ニュース



■maguna-tech (マグナテク)

【ロマンチック新聞】 @神楽坂ディブラッツ
10/16(月) 19:30 10/17(火) 19:30
前売=¥2000 当日=¥2500 問=070-3875-0497 (武智) E-mail maguna.tech@yahoo.co.jp ☆作=maguna-tech ☆出演=伊藤大介 林洋子 平松歌子 博美 武智圭 佑 他

ノイズで踊るダンスユニットmaguna-techによるコンテンポラリーダンスパフォーマンス。初の単独自主公演です。

Q—ダンスをはじめられたきっかけは?

武智—ももとは音楽が好きで、ロックみたいなことがやりたかったんですね。バンドなんか組んだりもして、自分のエネルギーがだせるようなことがやりたかったんだと思います。いろいろ模索しながら演劇なんかもやりました。そんな中でいろんなWSを受けたりしているうちに、山崎広太さんのWSを受けて、それからですね、ダンスをやってみようかなと。ダンスに自分のやりたいことをやれる可能性を感じました。

Q—ももとは音楽がやりたかったんですか。作品中の音を自分でつくられていますか。

武智—はい。音っていっても、ノイズとか。そういう感じのものでいい。

Q—影響を受けたアーティストは?

武智—Sonic YouthとかGENOCIDE ORGANとかMerzbowとか。まあノイズ系の人たちですね。

Q—maguna-techは武智さんと博美さんのももとは男女のデュオのダンスユニットですよね。共同でダン

スをつくれることになったのは、なぜですか?

武智—お互いにソロ作品を出品する企画があってそれで知り合いました。その後、あるきっかけがあり一緒に作品を作る機会があったのですが、全く違うタイプだったのに、なんだかうまくブレンドされたというか、おもしろい感じに作品として仕上がって、それからです。

Q—maguna-techと今回の作品について教えてください。

武智—今までずっとデュオ作品だったんですけど、今回は他のダンサーも加えてみました。ある知人からmaguna-techについて「今どき全部ノイズで踊るめずらしい人たち」と言われてしまいました。まあそんなところはあります。ノイズのライブのような感じをダンス作品の中に混ぜ込んでいきたいですね。

Q—ありがとうございました。

■初期型「まだらなまだらインゲン豆が旅立つよ」

10/24(火) & 10/25(水) 19:30
@麻布ディブラッツ 前売¥2300
当日¥2500 問=k-is-here@s3.dion.ne.jp

☆振付・構成=カワムラアツノリ ☆出演=アゼチ アヤカ イシカワケンジロウ オーエマミコ シゲモリハジメ フカミアキヨ 他

全編ハイテンションをキープするリズムにノイズなギター。後のバンクよりはるかに刺激的なエネルギーに溢れた'73年発表の1stアルバム。ジ・愛スベキバカ!!

カワムラ「やあ、みんな今日もお疲れ様。今日のりは終了です。お疲れ様でした! ...かくかくしかじか...というわけで、カワムラに質問をお願いします。」

◆初期型Fさん「ダンスとは何ですか?」

カワムラ「うおっ! いきなし...うー。意味のない実体のない言葉です。すべての人一人一人のダンス観があると思います。カワムラにとってのダンスとは! みたいな事を言えるのは60年くらい先だと思います。今はカワムラダンス探中です。」

◆初期型Nさん「作品を作るとき、ストーリー、コンセプ

ト等、人間の奥に潜んでいる何か、とかあるんですか?」

カワムラ「これまた! ...うー。コンセプトとかを先に考えることはほとんどありません。まずヴィジョンです。出てきたヴィジョンを言語化して考えて、言語からまたヴィジョンを作ります。そしているうちに、自分の今の課題やら疑問やら関心やらが浮かび彫りにされてきます。それらをコンセプトとよべるかもしれない。」

◆初期型Iさん「なぜ演劇からダンスにうつったんですか?」

カワムラ「えーと。小さいときからダンス憧れはありまして、演劇の養成所のダンスのワークショップで先生にホメられダンスやるかーとなり、今に至ります(→ブログに詳しくあります)。また、ダンスの方が個人活動(ソロ)も出来、創作発表の場も多いことがダンスシーンで活動する魅力だとか感じました。でもダンスか演劇かってことは、洋食か和食かってことぐらいの差でしかないと考えています。」

◆初期型Kさん「なぜ今回10人に?」

カワムラ「やてえー! っていう人を集めつつ、男女比を考慮して10人になりました。以前から目をつけてた人たちです。カワムラの宝です。」

◆初期型Hさん「新人ヒラサワ君はどうですか?」

カワムラ「よいです。若く、美しく、吸収力は夜用並みです。新人といえば最近カワムラの傾向で、ダンスホームではない人材をまぜるのがあります。それは初期型内を活性化し、ダンスシーン(ダンスオタク=評論家衆とか)の見方にとらわれない作品を目指すということなのだ。」

◆初期型Aさん「初期型の名前の由来は?」

カワムラ「初期→始めにダンス(仮)したい!という初期衝動。型→系の人ってことかな。分類わけが好きだから。」



TINY ALICE / NPO ARC

新宿区新宿2-13-6 光臨ビルB1 tel&fax 03-3354-7307
http://www.tinyalice.net tokyo@tinyalice.ne.jp

10/14(土)~10/15(日) ■仏園観音びらき from 大阪
[宗教演劇] Alice Festival 2006 参加作品 問=070-5167-0225 ☆作・演出=本木香史 ☆出演=峰川子 水津安希央 本木香史 ゆであすき 萬知明(劇団ウエスト) 藤原新太郎 (Team dark blue) 他未定 ◎演劇の名を借りて世の中の煩惱と戦い続ける「仏園観音びらき」は2002年5月に結成された演劇ユニット。その自虐的なナンセンスコメディな作風はますますグレードアップし、ストレス解消になると疲れたいOLさんたちからの声多数。今後は全国津々浦々にも演出予定。全国に仏園団を敷き散らし、サブカルチャーの星として輝くことを夢み、日々精進しております。演劇人のおこがれ、美内すずえ先生の代表作「ガラスの仮面」のパロディと見せかけて演劇界のダークサイドを鋭く突く問題作。

10/20(金)~10/22(日) ■権権華殿(RUKAKADEN)+釜山演劇製作所DNYOK(Dong-Nyok) from 東京+釜山
[Myth Busan-Tokyo MIX] Alice Festival 2006 参加作品問=03-3354-7307 ☆作・演出=O Chi Un 川松理有(※共同脚本・共同演出) ☆出演=森田小夜子 佐野陽一 日野由絵 畑中友仁 Ha Hyeon Gwan Yang Jong Ye Kim Seil Lee Ji Young Choi Yu Ri Kim Ho Min (詳細は2記事参照)

10/25(水)~10/26(木) ■パフォーマンスユニットくらっぶ
「症の門」 問=0742-43-7055 ☆作=フランツ=カプカ(原作) ☆演出=もりながまこと ☆出演=岡本拓郎 木村由有里 新川直人 竹島遥香 西岡侑希子 前田考美 もりながまこと ◎障害のある人たちの芸術文化活動を支援し、アジア太平洋地域へもそのネットワークを広げている「たんぼほの家」(奈良市)。パフォーマンスワークショップは、たんぼほの家のコミュニティサービスマニューとして2年前にスタートしました。音楽もダンスもなく会話だけで構成された舞台は、知的障害のある人たちの存在感や世界観を表現する新たな可能性として注目され、昨年度は、明治安田生命社会貢献プログラム「エイブルアート・オンステージ」の支援を受けて作品「ファウスト」を発表しました。

【症の門】は、そんなくらっぶの初演作。知的障害者のヘルパーでもある役者・もりながまことと、縦横無尽、奇想天外な「日常会話」のやり取りが、私たちの「常識」すなわち固定化されたものの見方に揺さぶりをかける実験作です。

10/27(金)~10/31(火) ■pu-pu-JUICE 詳細未定
11/2(木)~11/5(日) ■踊る演劇小ネタ集団アトリエサックス from 大阪 「はじめてのメリークリスマス」 Alice Festival 2006 参加作品 問=090-9696-0141 (p3記事参照)

麻布 die pratze

〒108-0044 港区東麻布1-26-6 2F T&F 03-5545-1385

10/12(木)~10/14(土) (fVibrate)
10/15(日) (fNOVAS) ■ダンスカンパニー Deux
[Vibrate <ヴィブラート>] [NOVAS <ノヴァス>] 問=090-8042-0635 (ダンスカンパニー Deux) ☆演出=山名たみえ ☆出演=山名たみえ 辻桃子 越川徹郎 (Vibrate) 長沼陽子 佐藤百恵 富士奈津子 他 (NOVAS) ◎Vibrate: 震える感性が空気にコラボレートする。NOVAS: 思いきり踊り思いきりつくりたい人のためのトピス。

10/17(火) & 10/18(水) ■沢別行
[リア王一人形と仮面を使う一人の演者による無言劇一] 問=03-5772-3911 (有限会社アクスルプロ) ☆原作=ウイリアム・シェイクスピア ☆脚本・演出・美術・出演=沢別行 ◎本日の愛が見えず、娘たちに裏切られ、気づいたときには狂気と死が待っていた孤独の王、リア。シェイクスピア悲劇最高峰、ノリサワ凝結ヴァージョン!

10/20(金)~10/22(日) ■やぶささはんサムボイス
[本能G] 問=080-5008-1545 ☆作・演出=成瀬トオル ☆出演=團子 多智花孝彰 まつだ香生 生野和人 松井美帆 宇都宮快斗 他 ◎ASSH内ユニット待望の第二弾。本能と煩惱にまみれた謎の事件を追うのは少年探偵と孤島の男と恋する乙女と織田信長。恋の炎が再び本能を焼きつくす。

10/24(火) & 10/25(水) ■初期型
「まだらなまだらインゲン豆が旅立つよ」(上記記事参照)
10/28(土) & 10/29(日) ■DANCE HOUSE
[DANCE HOUSE 023] 問=080-1906-4137 (ダンスハウス) ☆作=片岡康子 他 ☆出演=中野真紀子 平田友子 桂由貴子 相馬秀美 大竹千春 長瀬未来 他 ◎ダンスシーンにおける総合的な活動の場を広げようという片岡康子の主旨のもと'94年に結成。以来国内外で22回の公演を行い、数々の新作を発表してきた。

11/1(水)~11/5(日) 11/6(月) & 11/7(火) ワークショップ *11/1, 2プレビュー公演あり ■She-friends

[LIFE] 問=080-3245-5860 ☆作=中川千英子 ☆演出=白峰ゆり子 ☆出演=横田紀子 塚本一郎 塚本千代 仙頭美和子 他 ◎今年3月初演で大好評を得、テーマはそのまま、新しい演出と主役以外のキャストを一一新して再演。その時を大切に自分らしく生きることを願える。

神楽坂 die pratze

〒162-0812 新宿区西五軒町2-12 T&F 03-3235-7990

10/13(金)~10/15(日) ■ロリスバーガー
[ピカソのすっぱさと僕の涙] 問=080-5065-1557 ☆作・演出=榎井稔 ☆出演=金美保子 杉田達哉 手塚和典 中村吉吾 森口美樹 山本卓司 他 ◎ビールを飲むとグップが出来るように自分のことを考える涙が出る。早く何とかなればいいのに...

10/16(月) & 10/17(火) ■maguna-tech
【ロマンチック新聞】(上記記事参照)
10/20(金)~10/22(日) ■FRUIT BASKET
[FRUIT BASKET] 問=090-1361-8167 Email info@shimaisland.com ☆作・演出=岡田一博 ☆出演=岡田一博 藤田佳奈 下中裕子 印宮伸二 他 ◎小劇場界をさすうテマパーク劇団、嶋アイランドが放つ第三弾。「観」無き嶋アイランドとはこれいかに? サイケデリックなあなたに送るテーマパーク型オムニバス。

10/24(火) ■LUNE NEO PERFORMANCE 2006
「夜明けの漂泊者」 SOLD OUT
◎楽しみにしてくださっている皆様、本当にごめんなさい。12月にまた宜しくお会い致します。

10/27(金)~10/29(日) ■CAVA (さば)
[アリア] 問=090-4829-4221 ☆作・演出=CAVA ☆出演=黒田高秋 藤代博之 丸山和彰 ◎大中小の男3人によるマイムカンパニー-CAVA(さば)。個人での、水と油「ハチワークス2」、青年団若手自主企画「立つ女」等への客演を経ての新作公演。

11/3(日) ■海樹集団(・・・)いとおかし
やっことどここい的な第2弾目「あなただからです」 問=090-2223-0992 ☆作・演出=大谷豊 ☆演出=いとおかし ☆出演=根本明菜 菊地祐太 潮川正彦 丹羽悠介 大森和樹 ◎「自分自分を好きにならなければ誰からも好かれない。」正論です。でも、「誰かに好きと言われてもらえるから自分も好きになれる。」これも正論です。だしたら...

schedule for October 2006

schedule for October 2006